



地球大学アドバンス 第41回

2011.6.30 (木)

[コミュニティ・セキュリティの再構築] シリーズ

2011年度基調講演 “3.11から未来へ”

3.11大震災が露わにしたもの——それは現代社会がもつ潜在的な「脆弱さ」である。原発事故のみならず、途絶したライフライン、沿岸部の冠水リスク、大量の帰宅困難者の問題まで、日本が誇る「安全神話」が震災で大きく揺さぶられた。

とはいえ、それは震災前から「地球大学」が警告し続けてきた問題でもあった。なかでも大規模ライフラインの危うさ、首都圏や大阪平野など日本の人口の50%、資産の75%が集中する沿岸低地の大都市の水害リスクは、今後の首都直下型・南海地震の発生や気候変動などを考えれば、決して過去の災害として片づけるわけにはいかない「未然形」のリスク・マネジメント課題である。

その意味で、今回の震災は日本社会、特に東京首都圏の私たちにとって、貴重な学習と自己変革のチャンスであり、防災・減災とともに今後の気候変動や資源制約への適応力も備えた“変動に強い”都市と国家を再構築する好機として、是非ともこの機会を生かしたいと思う。

そこで今年度の地球大学アドバンスは、テーマを「コミュニティ・セキュリティ」の再構築と設定し、特に首都圏と都心部のコミュニティ・セキュリティ・デザインをめぐる、さまざまな視点から集中討議を行いたい。

取り上げるトピックスは、首都圏の防災・減災ビジョン、帰宅・通勤困難者問題、都心部の防災タウンマネジメントと「コミュニティ・セキュリティ・センター計画」、都市モビリティの多元化、エネルギー安全保障など多岐にわたる。減災情報システム、防災行動や意識といった「人間」の側のファクター（今回の3.11震災でも避難行動や意識の差が生死を分けた）にも焦点を当てていきたい。

震災後、政府の復興構想会議・検討部会委員として、東日本大震災の復興ビジョンづくりに携わってきた。だが、本当の仕事はこれからである。“災害でやられたら直す”という「災害先行・復旧型」の国家から、災害リスクを未然に低減させる「予防・減災型」の国家への脱皮の時である。

新しい日本と東京首都圏をデザインする思考実験として、今年の地球大学に参加いただきたい。

「地球大学アドバンス」企画コーディネーター：竹村真一

開催概要

日時：2011年6月30日(木曜日)

18:00 受付開始 / 18:30 開演 / 20:30 終了

企画・講演：竹村真一氏

Earth Literacy Program 代表
エコツェリア・コンテンツプロデューサー
地球大学アドバンス 総合企画・コーディネーター
京都造形芸術大学教授

会場：新丸ビル10階「エコツェリア」

地図：<http://ecozeria.jp/access.htm>

定員：50名(先着順：定員になり次第締め切りとさせていただきます)

参加方法：事前登録が必要です 以下のURLからお申し込みください
<http://www.ecozeria.jp/earth/>

参加費：2000円

ただし、エコツェリア会員企業に所属の方は無料です
(照会いたしますので、名刺または社員証をお持ちください)